

# 事例研究、現地実習

里山環境と海上の森

日時：平成20年11月1日（土） 10:00～15:00

講師：戸丸 信弘（名古屋大学大学院生命農学研究科教授）

## 概況



午前中は海上の森のシデコブシについての講義があり、午後は実際に海上の森のシデコブシ調査区を見に行きました。

### ●シデコブシの一般的特徴と集団の衰退

シデコブシはモクレン科モクレン属の落葉小高木です。東海三県の湧水湿地にのみ生育し、東海丘陵要素の一つです。局所集団の新生、発達、衰退、消失が繰り返してこってきましたが、長期的にみると地域内の集団数は維持されてきたと考えられます。しかし、人為による開発、里山の利用減少と治山事業による土壌の安定化により、土壌攪乱が減少する一方、森林の遷移の進行が起こり、シデコブシ集団の衰退と消失が起っています。シデコブシは現在では準絶滅危惧種に指定されています。

### ●海上の森 南西部のシデコブシ集団の分布

海上の森南西部の8箇所にシデコブシの集団が分布し、メタ個体群(小さな集団が複数存在する)の構造をしています。

### ●屋戸川流域の樹木群集の構造と動態

屋戸川流域は、ソゴ、アカマツ、リョウブ、コナラの4樹種が優占し、シデコブシは全体の1%です。2003年と2007年のデータを比較すると、アカマツ林から広葉樹林への遷移の進行がみられます。また、平均胸高直径や胸高断面積合計の増加などから、調査区の林分が発達傾向であることも分かります。

- 屋戸川流域のシデコブシ集団の構造と動態

シデコブシの個体数は減少しています。小さなサイズの個体が枯損しやすいです。

- シデコブシの繁殖

シデコブシは有性繁殖(種子による繁殖)と栄養繁殖(萌芽と伏条による繁殖)の両方を行います。屋戸川集団で行った調査により、①大きな個体や光環境のよい個体は開花してかつ開花量も多い、②母親に距離が近い個体が父親になりやすいが、集団外からの花粉流動も見られる、③大部分の稚樹の母親は同じ集団内にいて、鳥散布にしては遠くに運ばれる種子は少ない、④実生は明るい場所やコケの上で生き残りやすいことなどが分かりました。

- シデコブシの保全に関する示唆

調査の結果から、海上の森の屋戸川集団は遷移の進行により他樹種に被陰されて光環境が悪化し、衰退傾向にあると考えられます。集団の保全のためには光環境の改善が必要であり、実生の生存のためにはコケの保全も重要です。また、ある特定の集団のみを保全するのではなく、地域内の複数集団全体をまとめて保全していく必要があります。